

ふじがわ

8 月 号 昭和59年 8 月20日 発行 No. 2 7 7

町 の メ モ

昭和59年 8 月 1 日現在	
人 口	16,996人
増 減	+7人
男	8,356人
女	8,640人
世帯数	4,384世帯
面 積	31.09km ²

富士川町 総務課



音頭にのって
元気よく盆踊りを!

(川坂観音まつり盆踊り)

町のこししの目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

おもな内容

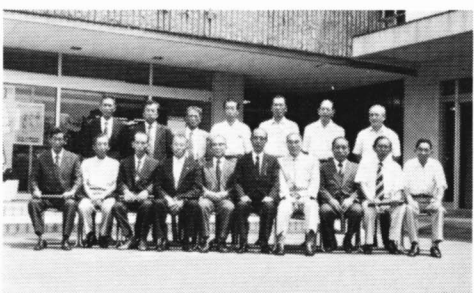
- 2～3ページ 新農業委員決まる、花田氏が
監査委員に、町のわだい
- 4～5ページ 広報ディスカッション
- 6～7ページ ママさん記者が取材中
「黒里を耕す会」
社会教育の課題、ふるさと探
訪、マンガ、まちの指定文化
財
- 8ページ 戸籍の窓、一里塚、お母さん
の知恵袋、富士川短歌会

各区のこししの目標

- 他人への思いやり (旭町)
- 先ずあいさつは自分から (堺町)
- 小さな親切で助け合いの輪を広げよう (新町)
- 人の和で明るい住みよい暮らしに (新町本町)
- 明るいあいさつ家庭から (俣下町)

『新農業委員決まる』
地域農業に密着した仕事に活躍する

7月19日で農業委員任期が満了となるため、新営の合理化など、地域の新しい農業委員を決める選挙が、7月15日全国一斉に行われました。当町では、7月10日届出締切りで告示された同選挙に、定数十二人に対して、定数いっぱい十二人が立候補したため無投票となりました。



新農業委員と選管委員のみなさん

- 輪(新町)◇ 佐野 正豊(南町一)◇高岡 正亥(俣下町) 選挙によらない委員
- ◇常葉 雅文 (町長)◇白井 由夫(町議会議員)◇渡辺 浩章(町議会議員)◇谷津倉諄吉(町農協組合長)
- ◇久保田廣雄(清水町)◇望月 一郎(上町)◇清水 善穂(富士見町)◇渡辺 輪(新町)◇

富士川地区 子ども会球技大会が盛大に

7月22日(日)、河川敷スポーツ広場・町立体育館で「富士川地区子ども会球技大会」が行われました。男子のソフトボール種目には十九チームが、また、女子のバレーボール種目には二十チームが参加し、昨年9月町商工会から贈られた優勝旗の獲得を目指し、父母などの声援をうけて炎天下一日中熱戦をくりひろげました。



熱戦がくりひろげられた球技大会

- 男子ソフトボールの部 ◇優勝 上町
- ◇二位 東町A 三位 相生町A、旭町
- 女子バレーボールの部 ◇優勝 宮町
- A ◇二位 上町A ◇三位 相生町A、東町B

7月の交通事故ー 『夏の交通安全期間中 4件発生』

7月町内では、人身事故3件(6)、物損事故6件(8)、合計9件(14)発生し、3人が怪我をしました。()は昨年

発生した事故を路線別に見ると、国道一号线で2件、富士川身延線で3件、一般県道で2件、町道で2件です。7月20日から7月31日にかけて夏の交通安全全県運動が行われましたが、この運動中4件の事故が発生しました。これらの事故は、すべて運転者が交通ルールを遵守していれば防げた事故です。交通安全はあなたのためです。

「中部地区町村長 政策研究会」が

8月9日(木)富士川町で会場に「中部地区町村長政策研究会」が、常葉町長をはじめとして十八町長及び県幹部職員が出席し行われました。



町の概要説明をする町長

同研究会では、行政改革や各地域の問題について熱心に討議を行い、また、県からのしずおか21世紀プランなどについて説明を受けた後、富士川住宅団地の造成状況や野田山健康緑地公園などの視察を行いました。

町の

監査委員の選任など

9議案が可決される

町議会の第3回臨時会が、7月17日(火)午前9時から議場で開催されました。

町議会第3回臨時会で

農業委員の推せんについてなど、9議案が審議され、すべて原案どおり可決されました。人事案件として、監査委員の選任については、7月19日付で芦川守正氏が任期満了となったため新たに花田宗司氏が選任され、また、固定資産評価審査委員の選任については、7月1日付で望月六夫氏が町収入役に就任したため、新たに影島好彦氏(63・南町一)が選任されました。

監査委員に花田氏が就任



花田宗司氏(67) (舟山町)

二名の町監査委員のうち、専門知識選任の監査委員に花田宗司氏が就任し、向う4年間この職務にあたるということになりました。

同氏は、昭和46年から

昭和58年までの12年間町議会議員として、建設・総務常任委員長などの要職を歴任してきました。

町の監査は、毎月行われる例月現金出納検査や毎年一回定期的に行う定期監査などで、監査委員には、特に監査業務に習熟した適格者を必要とします。

わだいの

赤フンドシ姿で 富士川いかだくぐり

「ふるさと教室いかだくぐり」が、7月25日(水)木島河川敷広場付近の富士川で行われました。このいかだくぐりは、子どもたちが実際にいかだにのり、川くぐりをする事によって、川の自然や昔行われていた舟運の歴史などを体験することを目的として行われました。当日、親子約百人は日ごろ体験することのできない川くぐりで、また、男子は赤フンドシ姿で楽しい一日を過ごしました。



赤フンドシ姿でいかだくぐりを

四分団が三位に 小型ポンプ操法で

7月22日(日)清水市興津清見寺グラウンドで、消防団の「清庵支部査閲大会」が行われ、町消防団の代表として大型ポンプ操法に第一分団が、また、小型ポンプ操法に第四分団が出場し、日ごろの訓練成果を競った結果第四分団が見事三位になりました。

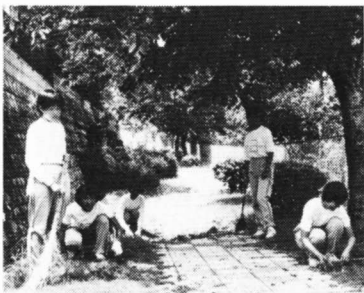


きびきびと整列

汗びっしょりになりながら 奉仕作業を

第二中学校生徒会(鈴木賢一会長)が、8月3日(金)学区内の通学路や公園などの清掃作業を行いました。

この作業は、生徒会として地域との結びつきを強く持つために奉仕活動を積極的に行っているという目的で行われました。三百五十三人の生徒は十三の地区別に別かれ、それぞれ、ぼうしやカマなどを使い、強い日差しの中で、汗びっしょりになりながら一生懸命作業をしていました。



汗びっしょりになりながら 奉仕する生徒



8月のテーマ
思い出しの土地
提言者 西大路隆和さん(73) (相生町)

40年前(昭和19年)

沼津での思い出は

富士松野 北川幸子さん(6)

昭和19年沼津の三井精機社宅に住む私たちは、8月長女を出産、その時、隣家の杉山さんにお世話になりました。翌20年7月のあの朝、子どものひろちゃんが呼びましたので、私は急いで行きました。「昨夜、主人が出張したの、予定日より10日も早いけど、今朝早くから痛み出しちゃってね」。早速産院に知らせました。しつかり者の奥さんのこと準備万端怠りがありませぬ。蠅張には子どもの昼食、おやつまで用意されていました。お産婆さんが来て間もなく男の子が産まれました。その夜、警

戒警報のサイレンが空襲警報に変わりました。飛び起きた私は、闇の中で子どもを背負いました。非常用のリュックサックを担ぎ外出した主人は、「西の空が真っ赤だ、敵機の爆音も聞こえる。この分だと今夜沼津が爆撃されるぞ、早くしろ」「杉山さん大丈夫ですか、本田町の防空壕へ急ぎましょう」

出産したばかりの体で乳母車へ赤ちゃんを乗せ、子どもの手を引き一緒に逃げました。東の空が明るくなり、大きく息を吸って外へ出ると足元に無数の焼夷弾が散らばっていました。この中の一本が、この防空壕に直撃していたらと、思わず身震いしました。あれから40年、現在ご主人は

亡くなられ、会社勤めの勇さん(あの日生れた赤ちゃん)と裾野にお住いの杉山春江さん、いつまでもお元気だと願っています。

湘南の町と友

新町本町 石神ひさ子さん(36)

子どもが一歳を過ぎた頃、郡内から藤沢の湘南台に移り住んで間もなく、娘の目がひどく腫れ上がってしまいました。

コンクリートから土のある生活に移り、土いじりの手で目をこすってしまったらしいのです。近くの眼科でみてもらうと、雑菌が入ったので通院を続けるようにとのことでした。そこで、私たちは知り合ったのです。

Aさんは二歳の女の子と一歳の男の子、Bさんは娘と同じ女の子を連れて通っていました。買い物の時に会ったりするうち、Aさんに遊びに誘っていたとき、車であちこちと連れていってもらいました。

不安だった新しい土地での生活も彼女たちのおかげで楽しい毎日でした。私たちが富士川町に転動することに決まった時、海の近くの

公園にお弁当を持って、三組の母子で遊びにきました。夏の去った湘南の海と広い芝の上で遊んだあの日のことは、年上のAさんと同い年のBさんと、ともに忘れられない思い出です。

あの人

富士見町 林 顯さん(56)

短い間の藤沢の町も私たちが富士川に移ってからは遠のいてしまいました。年に一度のハガキが届くたびに思い出しては、彼女たちがいつまでもお元気で幸せに思っています。

容赦なく照りつける太陽のげしさに、生あるもの皆、苦熱を乗り越えずに、氣息えんえんの態、その夏の陽が西の山の端に傾いて、ひぐらしの哀調が消え、涼風のそよぐ頃、あの人を精霊を迎える松明を焚く、想い出のあの人と毎年してきたように……。涼台を置き、松明の燃え差して線香花火に火をつける。薄暗がり幻想的な青白い煙が立ちのぼる……。

あの方は、和服が好きで、白いレースのフリルのついたエプロンがよく似合った。長い黒髪をかきあげ、打水をするのも好

きだった。白いあの人の手から湧く氷雨のような水玉が閃緑岩の庭石を蘇らせ、にっこり笑うかいがいしいあの人に、一層の愛情を募らせたものでした……。「ほらほら、きれいな嫁の声は、あまりにもあの人に似ていた。

この間、あの人の一回想に丸坊主になった私の頭を、紅葉のような孫の手が叩く。ふと吾にかえる……。無邪気に笑った童顔に、あの線香花火の一瞬のきらめきのように燃え、未完成で終わった想いのあの人の面影を見た。

思い出の土地……

生まれ故郷の町

南町二 斉藤ひろ子さん(8)

富士川町に住むようになり、もう五年になります。色々な土地へ旅行にいき、その土地での思い出は数々あります。

中でも、私にとり一番の思い出の土地といったら、生まれ故郷の鹿兒島の、ある田舎町です。桜島の少しむこうにある町で、とても住みやすいところです。

春には、菜の花やれんげ草が咲きみだれ、夏は、青い空と青い海での海水浴。

秋は、野山の木の葉が色とりどりに変わり、冬には、桜島大根など、おいしい物が沢山あります。ただこまることは、台風がとも多いことと、桜島の噴火による空からの灰が舞うことです。

今でも、年に一回、町役場から故郷を遠く離れている人たちへ、故郷の香りがいつぱいの草花を押し花にした便りが届きます。中には広報と町長さんからの自筆による励みの言葉もはいつており、私が楽しみにしている一つです。

最近、夕暮になるとひぐらしが涼しげに鳴いています。ひぐらしの声が聞えるたびに、鹿兒島に行きたくなる、そんなことです。

これまでの旅行で

上高地と黒四ダムが印象的でした

四十九町 山本登美子さん(8)

私は旅行が大好きです。知らない土地を見て回り、楽しい思い出をたくさんつくっておきたいと思えます。

これまで旅行した中で、上高地と黒四ダムのコースが印象的でした。飛驒の高山から入り鍾

乳洞を見て、自然の神秘に目を見張り乗鞍へ登りました。7月だというのにまだ残雪が二層もあり麓では晴天だったのに四分位で頂上へ乗り入れた時には強風と霧とで寒さに震え、山の天候の急変に驚いたものでした。

上高地のシンボルであるカッパ橋を渡り、右に約四静かな遊歩道を進むと明神池に出ます。「山のひだ屋」旅館では今でも自家発電のランプ生活です。

カッパ橋から左に折れ約一・五メートル下ると、日本アルプスを世界に紹介した英国人宣教師ウォルターウェストンの碑があります。川の中にはヤマメも見られる水のきれいな上高地です。立山は女人禁制の聖山だったと聞きました。その神境の奥に黒四ダムがあります。満々とたたえた水の蒼さに底の深さを感じました。関西電力が技術の粋を集めて完成したこのダムは、大勢の犠牲者の上に東洋一のダムが完成したと聞きました。余水が七色の虹を大きく半円を画いて宙に舞う光景は、見事でした。目で見る限りなく、今でも目を閉じるとまぶたに浮ぶ

雄大な思い出です。これからのできる限り思い出を求め、あちらこちらを見て歩こうと思います。

第5回青年の船に乗って

木島 芦川こずゑさん(33)

「ジャン、ジャン、ジャン」あの独自のドラの音が、二十一歳の私の胸を「キュン」と締めつけました。昭和47年12月26日、清水日の出頭から「海上青年大学」日本丸が紙テープや歓声の飛びかう中、香港、沖繩を目ざして出港した船上での集団生活、外地、何もかもが、目を見張るような感激でした。沖繩では、返還前の青年たちと一緒に涙し、現実を見つめ、自分たちの知識不足、力不足がはげしく、何とも腹立たしく思ったものでした。また、香港での自由行動では、船、二階建てバス、食事など、言葉は通じなくとも何んとか切り抜け、門限に危うくセーフしました。そんな集団生活の規律の中で得ることができた一番の「宝物」、それは「友情」でした。未知の体験や失敗を乗り越えて育った友情は、とても素晴らしいものですね。

今、12年近くたつ私たちが仲間には、まだ、あの感激がこの胸に「キュン」とよみがえります。

9月のテーマ

ふじかわ町の未来

一昨年島田市の親戚を訪れた際の事、繁華街を通り抜け、淋しい田舎道に差し掛かった頃、パツと目の前が開け思いがけない光景に出会いました。それは川中三、四メートル程の両側に競い合う様に咲き並ぶコスモスの群れでした。行けども行けども途切れる事なく、歓声を挙げているうちに目的の家に着きました。

日頃から殺風景な山道や、まるでゴミ捨て場の様な川等を見る度に、ここに人の知らない間に花の種を蒔き、ある日突然降って湧いた様に咲いたなら、……等とバカげた想像をする私には正にピタシの風景だったという訳です。現代は忙しい。母親もある



望月洋子さん(38) (川坂)

投稿者へ

- 9月のテーマ ふじかわ町の未来
- こんな町になってほしい
- 字数 400字づつ原稿用紙一枚以内
- 締切り日 9月5日(水)まで
- 投稿先・問合せ先 富士川町役場総務課 岩淵12番地
- 注意事項 匿名者の原稿は掲載しませんから、必ず住所・氏名・年齢を記して、締切り日までに投稿してください。

ママさん記者が取材中



「黒里を耕す会」

うだるような暑さが続く夏まつさかりの8月3日(金)、私たち広報モニターは、無農薬農業をめざし地道な活動を展開している「黒里を耕す会」会長の浦田雅史さん(宮町)にお話をうかがいました。

同会は、会長さんが「農業を使っている自分たち農民も、消費者からみれば加害者になるのではないか」という矛盾を感じたことに端を発し、この気持を地域の人たちにも理解してもらおうと、婦人を中心に農業などの学習会を開いてきた結果、昭

和54年に誕生し、農場のある字名の「黒里」をとってつけられました。

二カ月に一回合成洗剤追放やロングフライミルク反対などの問題について勉強会を開き、年一回一般参加者も含めた公開講座を開いています。

無農薬栽培で生産されたミカンは、最初は皮がきたないと断わられたこともありましたが、だんだんと価値が認められ、現在は、東京はじめ関東一円の希望者に販売されています。いごも手がけましたが、無農薬では良いものができませんでしたのであきらめて、養鶏に力を入

れることになり、現在、自家配合のエサで成鶏四百羽、育雛ナ三百羽を飼っています。ここでとれた卵は、町内、富士市、清水市、静岡市の約七十世帯に配られています。

「これからは、子どもの将来を考えて、お母さんたちも食生活を見つめ、考え直して丈夫な体で生活できるようにしてやりたい。それには、無農薬の地元農産物を学校給食にも使用してもらえば、増々安全な農産物を供給でき、生産者、消費



浦田会長さんにインタビューする広報モニター

者両者がお互いに良い状態になります」と話していました。

無農薬農業経営に、増々情熱を燃焼できる村づくりにならばと活躍している会長さんをはじめとして、会員や仲間の人たちに安全な産物をたくさん供給してもらえよう、ご活躍を祈らずにはいられません。

「会員のお母さんたちで自主運営できるようにすれば最高です。そして、小数のグループで話し合いを希望されるところがあれば、どこでも行つて輪を広げたい」と意欲的な会長さんの目が印象的でした。

(広報モニター 田村淑子)

▼社会教育(地域学習)の課題▲ 家庭教育を考える

家庭とはいったい何なのでしょう。家庭の姿は従前と比べずいぶん変わりました。急激な社会構造の変化は家庭を核家族と少子化、経済的余裕と消費型生活、あるいは教育投資という別な環境を作りだしたのです。

例えば、単に核家族化をみてもその影響は小さくありません。祖父母による生活文化の伝承がなくなり、かつ電気製品の普及により、生活の知恵も変容し、土に生き、地域に根ざした貴重な生活規範がなくなってしまうのです。伝統的な衣食住のならわしをどうやって若い世代に伝えていこうというのでしょうか。

このような問題を考える時ただ、対子どもの問題としてとらえるのではなく、親も家庭の変化の渦中であつて、知らずのうちに、家庭の在り方や子どもへの考え方が変わっていることを自覚しながら、家族全体のこととして考えなくてはならないと思います。

最近家族の教育力の低下を云々されますが、幾つかの大切なものが失なわれる中で、早急に規範たるものを確立して、相應の努力をしなければ、悪化の一途をたどるばかりです。ではどうすればいいのでしょうか。まず、家庭とは親子の連携の場であるということ。互いに理解し、皆のために共同で連携しなければならぬと思ふのです。第二に家庭では生活の知恵や文化を学ばせることです。先達の築き上げた豊かな文化をぜひとも伝えておかねばならないと思うのです。第三に家庭教育とは親の生き様そのものであるということ意識しておく必要があると思います。親のいうことはきかぬが真似はするといふことです。ほんとうに親の態度が問題にされるのです。

親は教える立場、子は教えられる立場という対立の関係でなく、共に学び、共に考え合うという立場で、家庭の在り方について話し合う場を作り出し、考え合つてはいいでしょうか。

ふるさと探訪

石仏巡礼

(三)

新豊院の善光寺如来

岩瀬新豊院の本堂前の植込みの中に善光寺如来の供養塔がある。施無畏与願印を結ぶ阿弥陀如来を中央に、左に宝冠中に観音の化仏をいたたく観音菩薩を、右に合掌する勢至菩薩を脇侍とする三尊仏であり、光背は舟形光背の幅広のものでこうした光背を一光三尊式光背といひ、善行寺式三尊像もこの形式が多い。又この光背に加えて両脇待にもそれぞれ頭光を配しているのもよくその特徴をあらわしている。

総高165cm、基礎20cm、塔身49cm、蓮華座19cm、80cmの舟形浮彫像。塔身の正面に善光寺如来、寛政七乙卯歳三月二十九日、花



田幸八、望月重石衛門とあり、その上の蓮華座には女人18人の名を刻み、更に塔身の一部にも7人の女人名を刻んであるがこれは書体からも時代が替つてのものではないかと思われる。上部三尊の脇には、中之郷、女人建と刻まれていることから女人講の人々の発願によって建立されたものと思われ近世の講を背

景とした集団の存在がうかがいしれる貴重な遺物である。

基礎に奥津宿、石屋棟梁、幸八と自ら石工の名を刻んだのも当時の石工としてはかなりの自信作か、自他共にゆるす名人であつたのではないかと思われる。もとは同寺裏山、観音道入口に建てられてあつた。

(芦川守正)

星の子



一里塚

まちの指定文化財(九)

史跡 一里塚
昭和46年1月28日指定
指定番号 1号
管理者 富士川町
型状等

塚面積西側一四五・五五平方メートル、東側一六七・七三平方メートル。西側榎根回り五・六メートル、目通り三・二メートル。

老人福祉センターの入口に、大きな榎が植えられている塚が二基あります。この塚が「一里塚」です。この塚は、今から380年前の慶長9年2月(1604)徳川幕府の命令によって大

久保長安が、東海道の一里(約四段)ごとに塚を築き榎を植え、「一里塚」と呼び、大名などの参勤交代や旅人の道程の便をはかったもので、同年の5月に完成したといわれ、江戸の日本橋を起点として、三十七里目の一里塚にあたります。

旧東海道には、現存する一里塚は数基しかありませんので、東海道五十三次を知る上で、また、当町の街道史を知る上で、大変貴重な塚です。

戸籍の窓

昭59・7・157・31届出分
(敬称略)

おめでた

区名	氏名	保護者	続柄
小山	植松哲也	角次	二男
旭町	大島嵩史	豊	長男
新町本町	岸川めぐみ	信行	長女
四十九町	秋山絵美	裕一	長女
宮町	若林明日香	義也	二女
〃	松下垂友美	守男	二女
小池	田中美穂	芳秀	長女
本通四	桐谷彰宏	友良	二男
幸町	望月翔太	勝己	長男
〃	倭文伸悟	清	長男
東町一	清 祐貴	博	二男
八幡町	小林慎太郎	保	長男
〃	望月歌織	勝彦	長女
〃	山田尚子	和夫	二女
相生町	米倉ちき乃		七八
上町	望月あき江		五五
〃	齋藤金太郎		八三
坂下	浅野 喜好		七七
旭町	佐野 満		七一
新町	加藤 善作		六二
本通一	井出福三		五三
〃	續 あい		九〇
幸町	山田武二		六二
〃	浦田 たか		七六
東町二	蓮池 とく		八六
大北町	望月 チウ		七五

一里塚



茹るような暑さの続く今日この頃、私はロサンゼルスからのオリンピック中継を毎日楽しんでいる。

今大会は何かと話題が多い、まるで映画を観ている様な開会式前のセレモニー、あつと息を呑んだ聖火台への点火等少々興奮気味でテレビに見入った。

日常あまり考える事もなかった民族性や人間の持つバイタリティーなどに感動したオリンピックも間もなく幕を閉じる。

二二二種目、世界一四〇か国の参加選手にテレビを前にして心から拍手を送りたいと久しぶりにおおらかな気分になった。

この感動を少しでも明日からの生活の中に生かす事が出来たらと考えている。

望月正子
美寿司会婦人部(小山)

かなしみ

区名 氏名 年齢

相生町	米倉ちき乃	七八
上町	望月あき江	五五
〃	齋藤金太郎	八三
坂下	浅野 喜好	七七
旭町	佐野 満	七一
新町	加藤 善作	六二
本通一	井出福三	五三
〃	續 あい	九〇
幸町	山田武二	六二
〃	浦田 たか	七六
東町二	蓮池 とく	八六
大北町	望月 チウ	七五

町への寄付金

す明るさはアメリカの大きさ、豊かさでしょうか。

(敬称略)

五万円	社会福祉事業費へ
S 59・7・16	8・6
三十万円	望月 伸泰(大北町)
十万円	加藤 恵子(新町)
社会福祉事業費へ	宇佐美 信(大北町)
善意銀行へ寄託	S 59・7・1
五百八十円	7・31
雑布五十枚	斉藤 ハル(小山)
美寿司会婦人部(小山)	

お母さんの

知恵袋

私たちは、毎日電気の世話になっていきます。この文化の進んだ社会に電気がない生活など、考えられません。

今回は、電気の歴史について考えてみました。

(1)電気を知らなかった時代

大昔の人は、雷や稲妻を悪魔や神のしわざと考えていました。

(2)電気の名付け親

一、六〇〇年イギリスのウィリアムギルバードは摩擦される他の物体を引きつける物質を発見し、その現象をエレクトロリティーと、名付けました。

(3)日本初の電灯(一、八七八年)

明治11年3月25日工部大学校(現在の東大工学部)が、電信中央局開業式の席上で、イギリスのエアトン教授の指導により初めて電灯が灯された。この日が電気記念日となる。

(4)清水に電灯ともる

明治43年清水入江町、清水町に中駿電気が最初に電気の灯をともした。

(5)電気の要語 A アンペア。

V ボルト。W ワット

七月詠草(天野寛選)



小池 中川しな子
柏葉をつたう梅雨にうたれつつ
葛蒲一つが今ほぐれむとす

南町一 上野みつ子
若き僧の回向の声のこだませる
堂に坐りて亡き父を偲ぶ

四十九町 入月 弘子
新しき短冊つけ替ふ風鈴の音す
みわたり梅雨明けむとす

坂下 植松 秀子
せんぶりを求めつつ歩む木下道
昼くらくして啼くやかなかな

本通一 長橋 安子
そごぼくの酒はめぐりて老ひと
り鳴らす口笛湯の町エレジー

舟山町 望月 八代
制服の少年一人が混りて棟上
げを祝ふ餅投げ始む

小池 土橋 節子
降りつぎし音なき雨の上るらし
あかときすずめらさえずりおり
て

本通三 桐谷 静子
梅雨けむる極楽寺坂の切通し過
ぎ来て長谷の寺に詣でぬ

坂下 川口 久代
夫と吾と回転展望台に坐りいて
男鹿半島の四方みはるかす

四十九町 村山 越子
髪乱す風の落ちたる若き日の写
真思いつつ登呂を又訪う